生野高校
77期 2年

学年通信 悉しつう有

第30号（2023年6月15日）

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂１－552
072-332-0531(学校代表)
072-332-**0712**(学年直通)

◆舞台を観るということ

みなさんは“観劇”と聞いて、何を思い浮かべますか？小学校や中学校（…はコロナ禍で中止になったかもしれませんが）の行事として、学校近くのホールで演劇鑑賞があったという人もいるでしょう。あるいは、自分の身近に観劇が趣味という人がいて、一緒に劇場へ観に行ったことがある人もいるでしょう。もちろん、自分自身が“観劇が趣味！”という人もいると思います。ちなみに私（高崎）は、ここ数年、兵庫県宝塚市の某大劇場に、年間十数回足を運んでいます。

ところで、“舞台を観る”というのは、普段みなさんが慣れ親しんでいる（と、勝手に決めつけて話を進めますが）“動画を視る”ということと、何がどう違うのでしょうか。もっと言うと、自宅・自室でテレビを視ること、映画館に行って映画を観ること――これらと観劇がどう異なるのか、意識をしたことはありますか？これらはそれぞれに異なった性質を持っており、それゆえに、同じ“みる”スタンスでのぞんでいては、それぞれの良さ・面白さを“みのがして”しまいかねません。これまで舞台を観る機会があったのに、その面白さを今一つ掴めなかったという人は、違う性質のものをみているにも関わらず、自分の“見方”を調節していなかったから――と言えるのではないでしょうか（ややこしくなるので、以下“見る”に統一します）。

【スマホやタブレットで見る動画】【テレビ】【映画】【舞台】の４種類には、様々な特徴の違いがあります。既に出来あがった作品を“再生”して見るものと、いま目の前で進行している様子を“目撃”するもの。主に独りで見るものと、他の観客とともに見るもの。端末やメディアを通して見るものと、生身の人間と同じ空間を共有するもの――そうした違いの中で、ここでは【舞台】とそれ以外との間にある２つの違いについて考えてみようと思います。

１つめの違いは、舞台には「カット・編集がない」という点です。映像では場面ごとに撮影したものを切り貼りして編集し、作品に仕上げていきます。途中で台詞を間違えても撮影し直すことが出来ますし、撮影を進めながら変更を加えていくことも出来ます。一方、舞台に編集は利きません。幕が上がったら、あとは最後まで進むのみ。やり直しは利かない一本勝負。演者も演出も、緊張の度合いは全くの別次元です。近年、長回しの場面は見る人に飽きられかねないということで、ドラマでも映画でもカット数が大幅に増えているそうです。短いカットを連続して連ねることで、見ている人に目を離させない、飽きさせない効果を狙ったもので、実に“タイパ社会”らしい話ですね。そうした短いカットを連ねるということは、舞台では出来ません。幕が上がってから降りるまで、基本的に全て連続してストーリーが進んでいきます。せいぜい何回かの暗転があるくらいで、うまい演出ならば暗転さえせずに場面転換をこなしてしまいます。カット数の多い動画に慣れ過ぎてしまい、“尺の長い場面に付き合う”ことに不慣れな人は、こういった点で「退屈…」と感じてしまうようです。

２つめの違いは、舞台には「フレームとアングルがない」という点です。映像は、その場で起こっている事の全ての場面が映されていません。演者の顔がアップになっている場面では、その表情がよく伝わり、見ている人の感情を揺さぶります。しかし一方で、首から下の胴体や腕や足は画面に映っていません（おそらく演者は映っていなくとも全身を使って演じているのでしょうが）。逆に舞台では、よほど前方の席に座っていない限り、演者の表情は見えにくいものです。したがって、テレビや映画のように、顔の表情一つで伝える、というのはかなり難し

いはずです。１階席後方、２階席の人にも演じている人物の感情を伝えるには、テレビ以上に全身を使った表現を取ります。演者は全方向から全身を見られていることを意識しています。当然、体の使い方も大きくなり、表現・表情も大げさになります（その“濃い演技”がまた、舞台の醍醐味でもあります）。舞台を見る際には、ぜひ演者の全身に注意を向けましょう。映像のように顔や表情ばかり見ていては、感情の起伏の半分も読み取れませんよ。

加えて「アングルがない」ことは、舞台を見慣れていない人にとっては、厄介な状況を招きます。映像では、“いずれかの点から対象をとらえた画面”が映されます。どの視点から、どの角度から、何を見ているのか――が、画面に示されるのです（ある地点からカメラで映しているのですから、当たり前なのですが）。したがって見ている側は、受動的に見ていても、誰から・どこから見ている、何を見ている、どれくらいの時間（何秒…）見ている――といった、見るべきポイントを受け取ることが出来ます。一方、舞台にカメラアングルはありません。先程述べたように、フレームもありません。カットもありません。舞台上で進行していることを、自分で整理して見る必要があります。基本的には主人公とその周辺の人物を中心に追いかけていけばよいのですが、それすら見ている側が“追いかけて”見る必要があります（映像では見るべき対象が画面に映し出されていますから、その必要がありません）。何を見るか、どこを見るか、誰が誰を見ているのか――ストーリーが進む中で、いま見ているシーンがどういった“場”を描いているのか、見る側にそれを見い出す力が必要です。それはとらえ方を変えれば、主人公とその周辺以外の様子を見ることも出来るということです。同じ演目を何度か見るうちに、ストーリーも人物関係も次の動きもだいたい分かるようになります。そうなったら、次は主人公とその周辺だけを追いかけるのではなく、もっと引いた視点で見ていけば、舞台全体がどう動いているのかが見えてきます。その他の人物がこんなところでこんな動作を！といった新発見があります。

以上に示した２点――カット・編集がなく、長回しの場面に慣れが必要であること。そしてフレームとアングルがないため、受動的な見方ではなく、舞台上で展開する場面を自分で整理して見る能動性が必要であること――から導かれるのは、映像を見るよりもずっと、見る側の力量で印象に差が生まれる芸能であるということです。“受け取れるかどうかに差が生じる”なんてことがあるだろうか？と思う人は、例えばクラシックのコンサートを想像すれば理解できるのではないでしょうか。クラシック音楽を聴くには、ある程度の慣れが必要です（と語れるほど私には慣れがありませんが…）。ベートーヴェンの交響曲第７番を聴きに行くとして、聴きに行くからには、その曲に自分の好きな箇所があります。その好きな箇所を、今回のコンサートではどのように演奏してくれるのか。違う指揮者・違うオーケストラで聴けば、新たに好きな箇所が見付かることもある――例えばそうしたポイントが、聴きに行く楽しみであったりします（音楽の理屈が分かっている人は、ずっと高次元の楽しみ方をすることが出来るのでしょうが）。この例一つを取っても、“どこをどう聴けばいいのか分からない”という人との間で差が生まれます。クラシックで眠たくなる人は、その音楽を受け取るだけの“語彙”や“文法”が不足しているということです（自戒の念を込めて書いています）。舞台の話に戻すと、【スマホやタブレットで見る動画】を楽しむにあたり、そうした“語彙・文法”があまり必要ではなく、【舞台】を楽しむには、それらがより多く必要である、と言えます。このような身に付いた“語彙・文法”を、「文化資本」（の一つ）と言います。

（オモテ面でおさまらなかったので、
ウラ面にもうちょっとだけ続きます！）

さて、舞台の魅力の一つに、同じものを二度と観ることが出来ない点があります。宝塚歌劇では２～３年でトップスターが交代し、かつそのトップスターの期間中に同じ演目は原則として上演しません。また、花月雪星宙と５組あるため、同じメンバーで同じ演目を上演することは、まずありません。劇団四季では、一つの役を複数のキャストで担当しており、一定期間で交代していきます。よほど近い日程で続けて見ない限り、全く同じキャストの組み合わせを見ることにはならないでしょう。このように、まず演者の組み合わせが変わります。また、同じ演者で上演している期間においても、演者の演技の変化（進化・深化）があり、観客の温度が違い、したがって劇場での空間のノリが違います。また、複数回見ていると、見ている自分の側にも新発見があり、結果として一度として同じ舞台にはならないのです。好きな演目をブルーレイで何度も見ていても、やはり一番に頭に思い浮かぶのは、いつだって実際の劇場で見た場面なのです。観劇経験は、それだけ強く、豊かなインパクトを私たちに与えてくれます。

初夏の西梅田で、幕が上がった瞬間に胸躍らせ、幕が降りた瞬間にみなさんがどのような言葉をこぼすのかを楽しみにしています。

【追記】

しっかりと拍手をしましょう。拍手のしどころ、というものがあります。身に付いている人は、呼吸をするように自然にそのタイミングを計ることが出来ます（経験を積めば誰でも慣れます）。

あと、カーテンコールでは思う存分に拍手をしましょう。劇団四季は、何度もカーテンコールに応じてくれます。その度に出て来るスタイルが異なり、それもまた楽しみの一つです。拍手がいつまでも鳴り止まずスタンディングオベーションになる時はさすがに疲れますが…。

◆当面の予定

6/16(金) 午前中授業
28(水) １・２限(60 分授業)
午後から芸術鑑賞 ＠大阪四季劇場
29(木)LHR ３年次科目選択説明会
(進路の手引きが必要です)
7/3(月) １・２年 ベネッセ模試
10(月)～20(木) 懇談週間・午前中授業
20(木) 授業２コマ＋大掃除＋全校集会